

アメリカンフットボールの第46回北海道学生選手権第2節は18日、北海学園清田グラウンドほかで1部2試合と2部1試合を行った。北海道学生王者を決める1部は、4日の第1節でともに不戦勝だったAブロックの北海道大とBブロックの北海学園大が、札幌学院大と北星学園大にそれぞれ勝利して2連勝とし、ブロック首位を決めた。両校は11月3日に優勝決定戦を行い、勝者が北海道代表として11月23日に仙台で行われるパインボウルで、東北学生リーグの勝者と対戦する。

北海道大は第1QにRB中牟田晃基（4年、埼玉・浦和高）の6ヤードTDランで先制すると、第2QにFGで加点。第3QにはWR黒田勇輝（3年、富山中部高）がキックオフリターンなど3TDを連発。QBサックからDL彌永貫至（3年、東京・桐明高）のファンブルリターンTDもあり、リードを広げた。札幌学院大は第3QにRBアンダーソン・真・グレン（4年、北広島西高）が22ヤードTDランで一矢を報いた。北海道大の村井公寿監督は「前半に10点しか取れなかったオフェンスは課題が残った。アンダーソン対策など守備



は合格点。北海学園大との優勝決定戦では、相手を勢いに乗せないようにしたい」と気を引き締めた。3TDのWR黒田は「ブロッカーがきちんとブロックしてくれ、そこを走るだけだった。北海学園大戦では1回でも多くパスをキャッチしたい」と決意した。

北海学園大は、開始早々にDB長谷部悠（4年、北海高）のインターセプトリターンTDで先制すると、RB山本遼太（2年、札幌国際情報高）、RB阿部龍太郎（4年、室蘭栄高）も快走を見せ、第1Qだけで3TDを奪った。第2Q以降もWR佐藤玲太（3年、札幌光星高）TDパスキャッチ、RB阿部の2本目のTDなどで加点した。北星学園大は第3QにQB二階堂真登（4年、室蘭栄高）のパスで敵陣18ヤードまで迫ったが、北海学園大守備にインターセプトされて反撃を封じられた。北海学園大の高木幸樹ヘッドコーチは「初めての实戦なので2人のQBを起用した。若いQBなので、4年生のRB阿部のランで攻撃のリズムを作った。北海道大戦はタフな試合になるの



で、ボールへの執着心を高めたい」と選手たちに期待。2TDのRB阿部は「試合前半に点が取れ、士気が上がった。北海道大戦も自分とラインの4年生でランを出し、要所でパスを決めてリズムを作りたい」と誓った。

今年の道学生選手権はコロナウイルス対策のために日程が短縮され、1部は6校を2ブロックに分けて3校ずつのリーグ戦と、両ブロックの首位チームによる優勝決定戦で争われる。今月4日の開幕戦は、Aブロックの北海道大-帯広畜産大、Bブロックの北海学園大-室蘭工業大戦を予定したが、新型コロナウイルス対策で活動中断が長引いた帯広畜産大と室蘭工業大がともに棄権したため、第2節が事実上の開幕戦になった。2部は北海道科学大と釧路公立大の2校のみの参加になった。

第3節は11月1日、札幌学院大グラウンドで1部Aブロックの札幌学院大-帯広畜産大、同Bブロックの北星学園大-室蘭工業大戦が行われる。

【記録】

▽1部Aブロック

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
北海道大（2勝）	7	3	27	9	46
札幌学院大（1敗）	0	0	7	0	7

▽同Bブロック

北海学園大（2勝）	20	20	14	0	54
北星学園大（1敗）	0	0	0	0	0

▽2部

北海道科学大	0	0	0	7	7
釧路公立大	0	14	0	2	16